

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 6 2	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Prevalence and the factors associated with binge drinking, alcohol abuse, and alcohol dependence: a population-based study of Chinese adults in Hong Kong. 多量飲酒、アルコール濫用、アルコール依存の頻度と関連要因： 香港における中国人成人の人口ベース研究</p>	
執筆者	
Kim JH, Lee S, Chow J, Lau J, Tsang A, Choi J, Griffiths SM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol and Alcoholism 2008; 43: 360-370.	
キーワード	
要 旨	
<p>目的： 香港の中国人において、飲酒のパターン、多量飲酒 (binge drinking)、アルコール濫用、アルコール依存相互の関連、また、問題飲酒と社会的要因との関連を明らかにする。</p> <p>方法： 2006年4-6月に9,860人の香港中国人成人を対象に無作為抽出による電話調査を行った。</p> <p>結果： 男性における年齢調整有病率は、多量飲酒が14.4%、アルコール濫用が5.3%、アルコール依存が2.3%であった。女性ではそれぞれ、3.6%、1.4%、0.7%と男性より低かった。若年層ほどこれらの問題飲酒の率は高かった。男性の多量飲酒者のうち、18.7%が同時にアルコール濫用者、12.3%がアルコール依存者であった。女性ではそれぞれ16%、9.9%であった。男性の多量飲酒者は、高齢、学生が少ない、サービス業に従事の傾向があった。女性の多量飲酒者は60歳以上、既婚、喫煙者の傾向があった。男女ともにおいて、喫煙者は、多量飲酒 (オッズ比 3.6-12.3)、アルコール濫用 (3.0-12.1)、アルコール依存 (5.2-20.6) のリスクが有意に高かった。</p> <p>結論： 多量飲酒は中国の文化の中では許されてきたが、香港では男女ともアルコール濫用やアルコール依存と強く関連した。問題飲酒の頻度は、アルコールの害の気づきの推進に役立つ。若年者の高率の多量飲酒からは、ライフスタイルの変化と将来のアルコール関連健康障害および社会問題が予想される。</p>	